

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	吃音		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	402
担 当 教 員	岸村佳典	実務経験と その関連資格	ベルビシア病院に言語聴覚士として勤務。主業務は入院患者への言語聴覚療法だが、吃音外来も担当している。			
《授業科目における学習内容》						
吃音についての基礎的知識を理解し、対応方法や訓練方法について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
言語聴覚士テキスト4版						
《授業外における学習方法》						
テキストを読み、予習・復習をしておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
吃音は、表面に出ている症状だけでなくその背後にある症状も理解し、心理的側面を考慮しながら対応する必要があります。吃音者特有の価値観・考え方や吃音悪化要因を理解し、効果的な対応や訓練ができるように、実例を交えて講義します。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	吃音症状と当事者の苦悩について理解できる	プロジェクター スピーカー	復習	
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義と資料映像の視聴、グループワーク			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	吃音の定義、疫学、鑑別、原因論について説明できる	プロジェクター	復習	
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	吃音症状、進展段階、吃音悪化要因の説明ができる	プロジェクター	復習	
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	吃音の評価に必要な情報や各種評価方法について説明できる	プロジェクター	復習	
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児期の吃音や合併する問題への対応内容について説明できる	プロジェクター	復習	
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の吃音への対応内容について説明できる	プロジェクター	復習
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	学童期の吃音への対応内容について説明できる	プロジェクター	復習
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	症例を通じて、実際の臨床の流れを説明できる	プロジェクター	復習
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児吃音ガイドラインで推奨される対応について説明できる	プロジェクター	復習
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	直接法の実施方法について説明できる	プロジェクター	復習
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	リカムプログラムとDCMの実施方法について説明できる	プロジェクター	復習
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理療法、セルフヘルプグループ、合理的配慮について説明できる	プロジェクター スピーカー	復習
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義と資料映像の視聴		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	RASS理論と環境調整法について説明できる	プロジェクター	復習
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	年表方式のメンタルリハーサル法を用いたRASS理論による臨床の流れを説明できる	プロジェクター	復習
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	症例からの様々な質問に対応できる	プロジェクター	復習
		各コマにおける授業予定	グループワークと講義		